

Assistant Language Teacher 多様な人や文化と 共生できる 子どもを育てる

総務省などが協力する
JETプログラムを活用し
新たに8人の外国語指導助手を配置



ALT (外国語指導助手) フランシス・ロビンソンさん

ネイティブの英語にふれる
昨年夏にアメリカから来日した、フランシス・ロビンソンさん。9月から市内3つの小学校で、外国語指導助手(ALT)として担任と一緒に英語を教えています。
授業の計画や進行は担任が行い、発音や会話練習はロビンソンさんが担当。就任当初は、子どもたちに英語が通じなかったといえます。
「子どもたちがこれまで耳にしてきた、日本人の英語の発音やリズムとは違ったんだと思います。でも、3カ月たった今ではすっかり聞き取れるようになっていきますね」
授業は、読み書きではなく話すことが中心。ペアになって1分間英語で会話を続けるスマールトークなど、会話に時間を使います。

「話しやすいようにリズムをつけて発音するようにしています。単語を忘れても、リズムは身に付くんですよ。以前の授業で習ったことを覚えてきてくれているとうれしいです」と、笑顔のロビンソンさん。授業中も子どもたちとペアを組み、英語で会話をします。

「自分のことを英語でもっと話したいと積極的に授業に参加してくれています。教えるなくてもaとanとtheの違いに自分で気付く子どももいて、英語への興味や関心が高まっていると感じます」
一緒に授業を行う教諭の星野さんも、「ネイティブスピーカー



「英語で伝えたい」を育てる

6年生が取り組んでいるのは、将来の夢についてのスピーチ。自分の就きたい職業と理由を、短い英文で伝えやすく。授業では、自分の夢をより詳しく伝えたいと子どもたちからの質問が飛び交います。

「母が日本人なので、小さいころからアメリカと日本の文化にふれてきました。その違いを知ること、多様な考え方を受け入れられるようになったんです。両方を知っている私だから分かることを、子どもたちに伝えたいと思っています」



カーのフランシスに英語が通じることが、子どもたちの自信になっている。口元をよく見てまねすることで、発音が変わってきた」と子どもたちの変化を感じています。
以前から、日本で子どもたちに関わる仕事に就きたかったというロビンソンさん。自身の経験がきっかけでした。

「母が日本人なので、小さいころからアメリカと日本の文化にふれてきました。その違いを知ること、多様な考え方を受け入れられるようになったんです。両方を知っている私だから分かることを、子どもたちに伝えたいと思っています」



春菊のナムル

ごま油と春菊の香りが食欲をそそる

食と育つ

保健センター
☎(758)4721

レシピ 大阪青山大学

●材料 2人分

- 春菊 120g
- モヤシ 40g
- ベーコン 40g
- ごま油 小さじ1
- 濃口しょうゆ 小さじ1/3
- 中華だしの素 小さじ1/2
- ニンニク 1/3かけ

熱量 (おとな1人分) : 122kcal、塩分 : 1.2g

●作り方

- 春菊はよく洗い、茎部分と葉部分を切り分け、それぞれ3〜4等幅に切り分ける。
- 鍋に湯を沸かし、春菊の茎部分、葉の部分、モヤシの順でゆでる。ゆで上がった後よく水を切っておく。
- 細切りにしたベーコンをフライパンで炒め、キッチンペーパーで押さえて余分な油を落とす。
- ★を混ぜ合わせ、②③を加えて盛り付ける。

POINT ベーコンの代わりに、ハムや豚肉を使ってもおいしく仕上がります

生きる

人権推進課
☎(740)1150

人は人と「ともに」「いまを生きる」

身に付けた力を自分と相手のために使う
当たり前のことを考え続けなければならない

このコラムも、私が担当するのはこれが最後です。これまで、いろいろ「当たり前」の話をしてきましたが、最後に付け加えておきたい「当たり前」は、人は皆一人ではなく、誰かと「ともに」「いまを生きる」ということ。これまでお話ししてきたように、人は身に付けた力を使って生きています。ただ、その身に付けた力は、自分のために使うだけではありません。人は不思議な生き物で、自分の力を使って何かをして、そのことで相手が喜んでくれるとうれしい。それは人の生まれ持った本性で、幼い子どもでも、赤ちゃんを見れば、誰に教えられたわけでもないのに、喜ばせようと必死になって、赤ちゃんが喜べば大喜びする。そういう生き物です。人は人と「ともに」「いまを生きる」ようにできているのです。

でも、現代はそんな当たり前のことを、あえて言わなければならないほど不幸な時代なのかもしれません。子を持つ親たちは、いつも子どもの将来が不安で、その将来のためになんとか準備を整え、将来を生き抜くだけの準備をさせたいと思う。誰もが「発達、発達」と叫ぶのは、親たちのそんな不安が背景にあることなのでしょう。でも、人は生身で生きている以上、親も子も「いま」を生きていることしかできません。突き詰めて言えば、誰もが今を、それぞれの手持ちの力で、ともに生きる。それだけのことです。それで幸せな暮らしが来ないのなら、それは時代の病理であり、社会の病理だといわなければならない。そう私は思っています。でも、そう考えれば、今は問題だらけの時代。お互い、これからも考え続ける以外になさそうです。

(前川西市子どもの人権オンブズパーソン 浜田寿美男)

消費生活センターだより

消費生活センター
☎(740)1167

タブレットのセット契約は慎重に

「実質無料」「今ならお得」に注意
解約すると高額な請求になることも

事例1 スマートフォンに機種変更した時に、携帯電話ショップで「タブレットは画面が大きくて便利です。スマホとセットにすると通信料が安くなります。タブレットは無料で差し上げます」と言われ、よく分からないまま契約してしまった。スマホの使い方もまだよく分からない。やっぱりタブレットはいらない。(80歳代 男性)

事例2 携帯電話ショップでスマートフォンを契約した時に「タブレットとセットで契約しませんか。タブレットは実質無料なのでお得ですよ」と勧められて契約した。請求書が届き、タブレットにも通信料がかかることがわかった。解約したいと言に行ったら「中途解約なので違約金とタブレット代など合計6万円を払ってください」と言われた。タブレットは無料という説明だった。納得できない。(60歳代 女性)

スマートフォンの機種変更や新規契約の際にタブレットとのセット契約を勧められ、契約したが解約したいという相談が寄せられています。タブレットが無料の場合や、タブレット代に相当する額を通信料から割引することで実質無料としている場合もあります。タブレットが無料でも通信料は別途発生します。「無料」「お得」と言われても、何が無料なのか、有料になるものはないのかなど、理解できるまで説明を聞きましょう。

一旦契約してしまうと、高額な解約料(違約金やタブレット代など)を請求される場合もあります。契約する前に内容をしっかり確認し、必要がなければきっぱりと断りましょう。困ったときは消費生活センターに相談してください。

市政情報

求人・募集

公民館

ごみカレンダー

セミナー

健康・鑑賞

中央図書館

相談の案内

高齢者

子育て

コラム

ニフオース